

# 定例記者会見

令和7年8月6日(水) 13時30分

感染症動向と予防対策

福岡市医師会 常任理事 植山 奈実



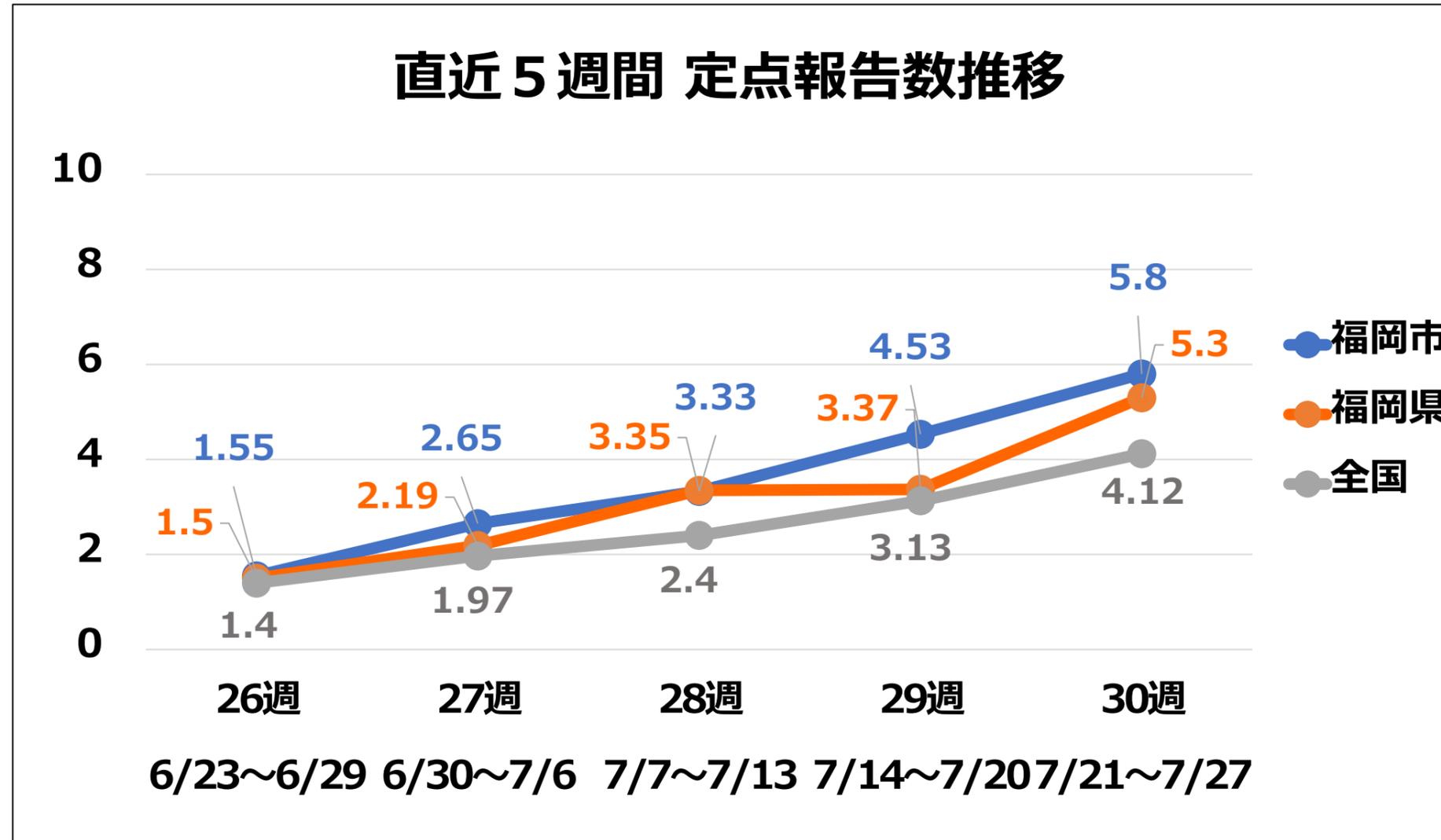
# ○福岡市感染症発生報告数（定点報告）

※福岡市HPを元に作成

五類感染症（定点報告）疾病	福岡市（直近5週の定点当たり報告数）					福岡県	全国
	R7年26週 6/23～6/29	R7年27週 6/30～7/6	R7年28週 7/7～7/13	R7年29週 7/14～7/20	R7年30週 7/21～7/27	R7年30週 7/21～7/27	R7年30週 7/21～7/27
新型コロナウイルス感染症	1.55	2.65	3.33	4.53	5.80	5.30	4.12
インフルエンザ	0.38	0.30	0.33	1.13	1.18	0.66	0.32
RSウイルス感染症	0.25	1.08	1.50	3.88	2.42	1.17	0.53
咽頭結膜熱	1.46	1.63	1.00	1.17	1.00	0.59	0.45
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4.17	3.67	3.08	3.42	2.13	2.13	1.60
感染性胃腸炎	5.75	4.38	4.88	5.13	3.04	4.91	4.19
水痘	0.63	0.17	0.63	0.21	0.29	0.34	0.34
手足口病	0.92	1.08	1.04	1.17	0.42	0.27	0.59
伝染性紅斑	3.83	4.75	3.75	3.33	2.79	2.90	1.88
突発性発疹	0.29	0.25	0.42	0.21	0.33	0.44	0.33
ヘルパンギーナ	8.67	6.67	4.46	2.33	0.67	1.11	1.63
流行性耳下腺炎	0.08	0.13	0.04	-	0.04	0.03	0.05
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	0.01
流行性角結膜炎	1.43	0.43	0.14	-	-	0.46	0.83
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	0.01
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	0.13	0.07
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.50	1.00	0.50	0.50	0.80	0.83
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	0.01
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	-	0.50	-	-	-	0.07	0.02
急性呼吸器感染症	44.98	49.45	47.83	49.45	55.95	44.48	48.20

# ○新型コロナウイルス

※福岡市HPを元に作成



**手洗いや換気、マスク着用などの基本的な感染対策の徹底  
重症化リスクの高い方はワクチン接種を**

# ○百日咳

※厚生労働省HP  
福岡市HPを元に作成

百日咳菌の感染によって、特有のけいれん性の**激しい咳発作**（痙咳発作）を特徴とする急性の気道感染症。

**乳児期早期から**罹患する可能性があり、乳児（特に新生児や乳児期早期）では**重症**になり、肺炎・脳症を合併し、まれに死に至ることもある。

## <感染者数>

令和7年の百日咳感染者数累計（令和7年7月27日現在）

全 国： **56,664**件  
福岡県： **2,210**件  
福岡市： **834**件

平成30年以降の感染者数累計（全国）  
※平成30年1月1日より5類全数把握疾患に指定  
国立健康危機管理研究機構感染症発生動向調査より作成

H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
11,947	16,785	2,928	746	499	995	4,054

# ○百日咳の感染経路等

※国立健康危機管理研究機構HP  
厚生労働省HPを元に作成

## ＜感染経路等＞

- ・感染経路 … 鼻咽腔や気道からの分泌物による**飛沫感染**と**接触感染**
- ・感染力 … **非常に強い**
- ・潜伏期間 … 7～10日間程度

## ＜主な症状＞… 全経過で約2～3か月で回復

### 1.カタル期（約2週間持続）

かぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増え激しくなる

### 2.痙咳期（カタル期の後に約2～3週間持続）

次第に特徴ある発作性けいれん性の咳となり、夜間の発作が多い。  
低年齢ほど症状は多様、乳児期早期では単に息を止めているような**無呼吸発作からチアノーゼ、けいれん、呼吸停止**と進展することがある。肺炎や脳症など合併することもあり特に**乳児では注意が必要**。

### 3.回復期

激しい発作は次第に減衰し、2～3週間で認められなくなり、成人では咳が長期間持続するが、やがて回復に向かう。

# ○百日咳の治療・予防

※国立健康危機管理研究機構HPを元に作成

## <治療・予防>

- ・ 治療 … マクロライド系抗菌薬が第一選択薬として用いられる
- ・ 予防 … **3種混合、4種混合、5種混合**の各ワクチン接種が有効
  - ※令和6年度以降、5種混合ワクチンを主に用いている
  - 初回接種：生後2～6か月に至るまでの期間を標準的な接種期間として20日以上の間隔をおいて3回接種
  - 追加接種：初回接種終了後6か月以上の間隔をおいて1回接種

福岡市医師会ホームページ「予防接種実施医療機関検索」参照のうえ、  
( <https://www.city.fukuoka.med.or.jp/FMANet/app/vaccination.php> )  
**直接 医療機関にご予約ください。**

**気になる症状がある場合は、かかりつけ医にご相談ください**

# ○結核

※厚生労働省HPを元に作成

令和7年7月16日、福岡市より市内専門学校で**計19人の集団感染**を  
発表。

結核は、結核菌によって起こり**多くは肺で発症**。

現在でも年間に国内で10,000人前後の新しい患者が発生しており、日本  
の主要な感染症の一つ。

## <患者数>

令和6年の結核患者数（速報値）※福岡県結核・感染症発生動向調査委員会資料より作成

全国：**9,942**件 福岡県：**473**件 福岡市：**166**件

## **早期発見・早期治療が重要です**

**咳が2週間以上続く・痰が出る・からだがだるい  
急に体重が減るなど気になる症状がある場合は、  
早めにかかりつけ医にご相談ください**

# ○結核の感染経路等

※厚生労働省HPを元に作成

## <感染経路等>

- ・感染経路・・・**空気感染（飛沫核感染）**
- ・感染力・・・少量の結核菌を吸い込んだだけでも感染
- ・発症リスク・・・生涯で結核を発症するリスクは5～15%  
HIV感染者、栄養失調者、糖尿病患者、喫煙者など免疫系が低下している場合は、発症リスクが高い

## <症状等>

**咳・痰・発熱・呼吸困難等、風邪のような症状を呈する**ことが多い。  
肺以外の臓器が冒されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳など身体のあらゆる部分に影響を及ぼすことがある。  
特に**小児では症状が現れにくく**、全身に及ぶ重篤な結核につながりやすいため注意が必要。

# ○結核の治療・予防

※厚生労働省HPを元に作成

## ＜治療・予防＞

- ・ 治療・・・ 4種類の抗菌薬による6か月間の投薬による治療  
再発・薬剤耐性菌の出現を防止するため、**治療完了まで**服薬を徹底することが重要。
- ・ 予防・・・ **BCGワクチン**の接種が有効  
生後1歳までの接種で、小児の発症を52～74%程度、重篤な髄膜炎や全身性の結核に関して64～78%程度罹患リスクを減らすことができる。  
※生後5か月～1歳の期間に1回の接種。

福岡市医師会ホームページ「予防接種実施医療機関検索」参照のうえ、  
( <https://www.city.fukuoka.med.or.jp/FMANet/app/vaccination.php> )  
**直接 医療機関にご予約ください。**